

休刊のご挨拶

佛教大学仏教社会事業研究所

所長 柴 田 善 守

この度、平成三年三月末日をもって、当研究所は佛教大学総合研究所化計画に伴う移行措置により、開設以来二十年の歴史を閉じることになりました。したがって本誌『佛教福祉』も、この第十七号をもって休刊せざるをえなくなりました。「仏社研」の閉所は誠に残念なことではありますが、諸先輩のご努力や「仏社研」の活動の歴史が、今後新しい佛教大学総合研究所に引き継がれ、益々充実発展していくものと信じております。

ところで、佛教福祉に関する常設の専門研究機関・専門誌としては、「仏社研」とその『佛教福祉』がわが国唯一といってもよいであります。その「仏社研」と『佛教福祉』が姿を消すことには、日本の社会福祉の将来を考えると少なからず心配があります。なぜならば「仏社研」や『佛教福祉』の存在自体は小さなものであったのかもしれませんが、わが国の社会福祉の将来のためには限りない可能性を秘めた存在であったと確信しておるからであります。その意味では、佛教福祉の研究・啓蒙の専門誌としての

『佛教福祉』の休刊は、残念至極と申せます。当研究所が発行する『佛教福祉』としては本号が最終号であり事実上廃刊ということになります。

しかし、わたくしは敢て「休刊のご挨拶」と申し上げたい。

今後の日本の社会福祉を考えると、仏教福祉抜きにしては、その展望を見いだせないように思います。何故かということは巻頭の座談会でわたくしの考えを述べておきました。発行母体は違っても、将来に『佛教福祉』の名を伝え、仏教福祉に関する研究と実践と啓蒙の場を確保していくことが、「仏社研」の最後の所長をおあずかりした者の今後の努めと考えておりますので、「休刊」という言葉を使わせていただきます。

最後に、長いあいだ当研究所の運営に多くのご支援ご協力を賜りましたこと、本誌『佛教福祉』をご愛読いただきましたことに、歴代の所長及びスタッフとともに感謝申し上げます。

有難うございました。

台掌